

107

contents

モディリアアーニと妻ジャンヌの物語展

常設展

年間スケジュール

天花

TENGE



高島北海(1850-1931)「日本垂白山雪踏破図」
1916年 山口県立美術館蔵

常設展

小林和作室

日本人の見たヨーロッパ

11/27 tue ~ 1/14 mon

表紙作品解説

高島北海(1850-1931)「日本亜伯山雪溪踏破図」 1916年
絹本墨画着色 掛幅装 一幅 130.4×50.5cm
山口県立美術館蔵

画面の上の方、遠くにある山が淡い墨で描かれていて、とても透明感があります。谷間に雪を抱いた高山の冷涼な空気が感じられるのではないのでしょうか。

これは、高島北海(1850-1931)という画家が、大正5年(1916)に描いた絵です。絵の左上には画家自身が題を書いていて、そこには「日本亜伯山雪溪踏破図」とあります。「亜伯」は「アルプス」。つまり「日本アルプス」の雪溪登山がこの絵の主題です。画面の中ほどのやや左下に、黒いシルエツトで描かれた五人の登山者の小さな姿が見えますね。

高島北海は萩藩毛利家の藩医の子として萩の江向に生まれ、地質学、植物学、フランス語などを学び、工部省や農務省において活発な山林調査を行った人物です。フランスのナンシーに留学した時には、アール・ヌーヴォーのガラス工芸家たちと交流し、北海の描いた植物の図はエミール・ガレに大きな影響を与えました。

北海の絵は独学で、本格的に「画家」として暮らすようになったのは五十三歳からです。地質学者としてさまざまな山を調査したときのスケッチが、北海の山水画の基本でした。この絵にも、北海自らの日本アルプス登山の経験が生かされているのでしょう。ただし彼は日本の伝統的な山水画の描法も身につけていて、この絵でも画面の中程から下の岩山の凹凸の表現などには、そうした描法が用いられています。画面全体としてみると、ちょっとチグハグな感じがします。

(当館学芸員 荏開津通彦)

家の恋物詩

-1920)は、
ます。
か3年後、

疎開
お
モ

永遠

Le us
19

いたことが
が。
：ディリアーニ
作してしまし
りません。ピカソ
ンドによれば、「
とのこと。(ピカソ
ヴィエ著、筑摩書房、19

Q モテモテた
本当ですか
A 頭がよくて、
ンサム。こ
りません。ピカソ
ンドによれば、「
とのこと。(ピカソ
ヴィエ著、筑摩書房、19

小林和作室

「日本人の見たヨーロッパ」 11/27~1/14
「小林和作のコレクション」 1/16~2/17

「日本人の見たヨーロッパ」では、写真家・福田勝治(1899-1991)や川原舜(1927-)、日本画家・高島北海(1850-1931)などによる、渡欧体験に基づく作品を展示します。「小林和作のコレクション」では、小林和作(1888-1974)蒐集の絵画を展示し、コレクターとしての小林和作をご紹介します。



香月泰男室

「山陽小野田市・岩崎寺の仏像」 12/26~2/17

山陽小野田市の岩崎寺は、平安時代初期の創建と伝えられる古刹です。同寺には、平安時代から鎌倉時代の仏像が伝えられています。現在お堂の建て替えのため当館に寄託されています。秘仏を含む県指定文化財の仏像6体を公開します。

山口県指定文化財「木造阿彌陀如来坐像」平安時代、12世紀
山陽小野田市・岩崎寺蔵

川原舜「モンマルトルバリ」1954-55年
山口県立美術館蔵

第二常設展示室

「松澤宥」 12/26~2/17

昨年10月に逝去した、日本におけるコンセプチュアル・アート(概念のもの)を作品化しようとする芸術の第一人者・松澤宥(1922-2006)の作品を展示します。

松澤宥「量子芸術公案 一」1994年
山口県立美術館蔵



第二企画展示室

「日本画の流れ④」 12/26~2/3

大正年間から昭和初期、そして敗戦までの30年あまりは、近代の日本に様々な大きな変化が現れた時期でした。この展示では、松林桂月(1876-1963)や粟本武雄(1901-1996)らの、大正から戦前までに描かれた作品をご紹介します。

松林桂月「長門峡図」1915年 山口県立美術館蔵

*「モディリアーニと妻ジャンヌの物語展」と同時にご覧いただける常設展については、「日本人の見たヨーロッパ」以外は前号(106号)で紹介しております。ご了承ください。

美術館ボランティアによる「ギャラリー・トーク」

「こどものためのギャラリー・トーク みんなでみよう」
モディリアーニ二展をみていきます。

日 時：会期中の土曜日 11:00~11:30
集合場所：モディリアーニ二展 展示室入口
参 加 費：無料(大人は観覧料が必要)

「常設展ギャラリー・トーク 'みる'を一緒に楽しもう!」

日 時：毎週土曜日 13:30~14:00
集合場所：常設展示室入口
参 加 費：無料(常設展観覧料が必要です)



アメデオ・モディリアーニ
《大きな帽子を被ったジャンヌ・エビュテルヌ》1916年 個人蔵

モディリアーニと 妻ジャンヌの物語展

Modigliani et Hébuterne, le couple tragique

2007.11.10 sat. 全期中無休 → 12.16 sun.

【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで） 会期中無休
 【夜間特別開館】11月22日（木）～25日（日）は20:00まで開館（入館は19:30まで）
 【観覧料】一般 1300円（1100円）／学生 1100円（900円）
 ※（ ）内は前売りおよび20名以上の団体料金
 18歳以下、70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在籍の方等は無料
 【主催】山形県立美術館、毎日新聞社、テレビ山形 【特別協賛】エルクホームズ株式会社
 【協賛】大日本印刷、中国電力株式会社、山形県医師会 【特別協力】山形銀行、ユアコム山形
 【協力】全日本空輸 【後援】フランス大使館、イタリア大使館 【企画協力】アイデア・ジャン

<http://www.yma-p.jp>

1900年代初頭、 モンパルナスに咲いた芸術家の恋

20世紀初頭にパリ、モンパルナスで活躍したアメデオ・モディリアーニ（1884-1920）は、32歳のとき14歳年下の画学生ジャンヌ・エビュテルヌ（1898-1920）に出会います。しかし、才能ある画家と年下の画学生のロマンチックな恋は、出会いからわずか3年後、モディリアーニの死とジャンヌの自殺という悲劇で幕を閉じました。本展覧会では、モンパルナスの伝説となった二人の恋物語をたどりつつ、モディリアーニとジャンヌ、二人の作品の魅力をご紹介します。

I 出会うまでのふたり *Les amants avant leur rencontre* ～1916

二人が出会う以前の作品を紹介します。すでにボヘミアン的な生活を送っていた青年画家・モディリアーニと、裕福な家庭の娘だったジャンヌ。二人が暮らしていた環境の違いは、絵の中にもあらわれています。

II 出会いから同棲へ *La rencontre et le début de vie commune* 1916～1918

二人の出会いから、生活を共にし始めた頃の作品を紹介します。彼らの運命の出会いはおそらく1916年12月でした。モディリアーニによるジャンヌを描いたデッサン、共に暮らした部屋からの眺めを描いたジャンヌの作品、二人が同じモデルを描いた作品などが主なみどころです。



ジャンヌ・エビュテルヌ
《食卓上の静物》個人蔵
©Pond Hébuterne, toute reproduction interdite.

モディリアーニ Q&A

Q モディリアーニの出身地は？

A イタリアのリヴォルノという港町です。リヴォルノ、フィレンツェ、ヴェネツィアで美術学校に通った後、1906年、21歳でパリにやってきました。

Q 彫刻家をめざしていたことが あると聞きましたが。

A 1914年ごろまで、モディリアーニは彫刻を熱心に制作していました。材料を買うお金がないので、地下鉄用の枕木や、建築現場の石などを勝手に彫っていたそうです。

恋物語



16歳のジャンヌ・エビュテルス
© Fond Hébateme, toute reproduction interdite.



ジャンヌと出会った頃のアメデオ・モディリアーニ

III ニースへの旅立ち

Le départ pour Nice
1918~1919

モディリアーニの療養と、第一次世界大戦からの疎開をかねて滞在した、南フランス、ニース時代の作品を紹介します。およそ一年の滞在の間、二人にはつかの間の幸せが訪れました。南の明るい太陽のもとで描かれた、モディリアーニによる幸せそうなジャンヌの肖像画が印象的です。彼らの娘も、ここで生まれています。



アメデオ・モディリアーニ
《17歳の若い娘、ジャンヌ・エビュテルス》
1918年 個人蔵

IV 永遠の静寂

Le «silence éternel»
1919~1920

パリへ戻ってからの最晩年の作品を紹介します。モディリアーニは意欲的に制作を続けますが、残された時間はわずかでした。モディリアーニによる寂しげな自画像デッサンは、迫り来る死を自覚して、すべてをあきらめているかのようです。ジャンヌもまた、自殺を予告するような水彩画の連作を描きのこしました。

Q モテモテだったって、本当ですか？

A 頭がよくて、話がおもしろくて、ハンサム。これでもないわけがありません。ピカソの恋人だったフェルナンドによれば、「美しいローマ式の顔」とのこと。「ピカソと其の友達」フェルナンド・オリヴィエ著、筑摩書房、(1942年より)

Q お酒の席での武勇伝があるとかな…

A 深夜に裸で踊っていたり、大騒ぎしてカフェから追い出されたり。一方、お酒を飲むのは、何かに悩んでいたときだけだったという証言も。実は案外、繊細だったのかも知れません。

Q ジャンヌはどんな人だったんですか？

A 色が白く、ブルーの瞳、美しい栗色の髪をしていました。無口で、おとなしい性格だったそうですが…。写真からは、どんな印象を受けますか？

Information

■ 夜間特別開館

11月22日(木)~25日(日)は
20:00まで開館いたします。(入館は19:30まで)

特別鑑賞会「モディリアーニ夜話」

18:00~(夜間特別開館期間中)

秋の夜長、モディリアーニとジャンヌの恋物語を
学芸員がご案内します。

■ 月曜特別開館(会期中無休)

毎週月曜日11:00からは、学芸員による
ギャラリー・トークがあります。

学芸員によるギャラリー・トーク

[日時]11月18日(日)、12月2日(日)および
会期中毎週月曜日 11:00~

子どものためのギャラリー・トーク 「みんなでみよう」

美術館ボランティアによる
子どものためのギャラリー・トークです。
[日時]会期中毎週土曜日 11:00~

託児サービスちびっこルーム(定員制・要予約)

会期中毎週木曜日(10:00~13:00)無料の臨時託
児所を用意します。利用する週の月曜日までに電
話、またはE-mailでお申し込みください。

■ 講演会

「顔を見る／かく／かんがえる」

モディリアーニの描いた人物像を出発点に、
さまざまな「顔」のとらえ方をお話しいたします。
[講師] 鷺田清一(大阪大学教授)
[日時]11月18日(日) 14:00~(13:30開場)
[会場]山口県立山口図書館レクチャールーム
[定員]290名(先着順)

「どうして首が長い? 美術史から見たモディリアーニ」

モディリアーニ作品への素朴な疑問に、
美術史の立場からわかりやすくお話しいただきます。
[講師] 宮下規久朗(神戸大学准教授)
[日時]11月23日(祝) 14:00~(13:30開場)
[会場]美術館講座室
[定員]80名(先着順)

■ お申し込み・お問い合わせ先

〒753-0089 山口市亀山町3-1
山口県立美術館
tel: 083-925-7788
E-mail: a19304@pref.yamaguchi.lg.jp

■ 映画上映会

「モディリアーニ 真実の愛」

2004年/仏・英・伊合作
監督:ミック・デイヴィス/出演:アンディ・ガルシアほか

モディリアーニとジャンヌの愛と葛藤を
映画でお楽しみください。

[日時]会期中毎週土曜日 ①10:00~ ②13:30~

[会場]美術館講座室 [観覧料]300円

■18歳以下、70歳以上および高等学校、中等教育学校、
特別支援学校に在籍の方等は無料



2004 UKFS 6 LLP/Lady UKFS 5 Ltd/
Frame Work Production GmbH & Co. KG/
Molva Pro Pictures/Baskin Film S. A./Alice S. G./France 3 Cinema

■ 山口情報芸術センターでもモディリアーニ! 「モンパルナスの灯」

1958年/仏/監督:ジャック・ベッケル/出演:ジュエール・フィリップ、アヌーク・エーヌ
[日時]11月28日(水)・29日(木) 13:30~ 11月30日(金) ①13:30~ ②19:00~

12月1日(土)・2日(日) ①13:30~ ②16:00~

[会場]山口情報芸術センター(山口市) スタジオC

[料金]一般1,000円 any会員/学生800円

ジュニア(18歳未満)/シニア(65歳以上)/障がい者と介護の同行者1名500円
※「モディリアーニと真ジャンヌの物語展」半券を持参の方800円

[お問い合わせ]083-901-2222(山口情報芸術センター)

2007-2008

schedule

山口県立美術館 平成19年度年間スケジュール

特別展

常設展

4	
5	
6	6/1~6/10 日本工芸会山口支部設立50周年記念「第30回記念伝統工芸新作展」 6/15~6/24 第46回日本現代工芸美術展
7	7/24~7/29 第25回山口県書道連盟展
8	8/23~9/9 山口県総合芸術文化祭 第61回山口県美術展覧会
9	9/28~10/28 田中米吉 —“ドッキング”からの視線—
10	
11	11/10~12/16 モディリアーニと妻ジャンヌの物語展
12	
1	
2	2/6~2/10 山口県立大学卒業制作展 2/14~2/17 山口芸術短期大学卒業制作展 2/21~2/24 山口大学卒業制作展 3/5~3/8 第42回光展
3	

4/10		雲谷派①	日本画の流れ①
		5/6 5/8	狩野芳崖
	全工と赤間硯	油彩画のはじまり	日本画の流れ②
		雲谷派②	5/20 5/22
		6/3 6/5	5/27
		雲谷派③	森寛斎
7/1 7/3			6/26
		昭和の香り①	日本画の流れ③
		香月泰男の夏	7/29
	十二代三輪休雪	昭和の香り	7/22
		8/19 8/21	
		昭和の香り②	
		香月泰男の動物園	
9/30 10/2		雲谷派④	
		10/28 10/30	
	彫る・切る・削る	近現代の立体	
		雪舟	
		11/25 11/27	
		日本人の見たヨーロッパ	
12/24 12/26			
	絵付けされた陶器	山陽小野田市・岩崎寺の仏像	日本画の流れ④
		2/17 2/19	2/3
		雲谷派⑤	
		風景画の世界	2/26
		3/9 3/11	現代美術入門 I 一色一
4/6		雲谷派⑥	日本画の流れ⑤

Information

■休館日
月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)
年未年始(12月28日~1月3日)

■開館時間
9:00~17:00(入館は16:30まで)

■料金
常設展:一般190(160)円 学生120(100)円
()内は20名以上の団体料金
特別展:別途に定めた料金
常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学する方は無料。

山口県立美術館
YAMAGUCHI PREFECTURAL
ART MUSEUM
〒753-0089
山口市龜山町3-1
TEL:083-925-7788
FAX:083-925-7790
<http://www.art-museum.pref.yamaguchi.lg.jp/>

